

洪水などで被災した際の復旧について

一般家屋編

長雨や台風、ゲリラ豪雨などの大雨により水害が発生する危険性が増す時期を迎えます。洪水などで家屋等の建屋が浸水してしまった際の復旧（特に消毒）についてまとめました。

浸水被害状況について

床上浸水の場合

住家の床より上に浸水し、全壊・半壊には該当しないものの土砂竹木の堆積により一時的に居住することができなくなります。また汚泥・汚水等の流入により、**さまざまな感染症の原因物に汚染されている**危険性が高い状況です。それらを除去しなければ生活できません。

床下浸水の場合

床上浸水に至らない程度の浸水ですが、放置しておくと**虫やカビなどが発生する**おそれがあります。

災害発生時に注意すべき

感染症の例

汚水などで汚染された状態での飲食により感染するもの

黄色ブドウ球菌
サルモネラ属菌
カンピロバクター
病原大腸菌(O-157他)
ノロウイルス
など

汚水や汚泥、瓦礫などが原因で感染するもの

病原性レプトスピラ菌
破傷風菌
レジオネラ属菌
など

昆虫の媒介により感染症が広がる危険性があるもの
(感染が発生した場合に注意が必要)

昆虫媒介型感染症
(デング熱やジカ熱ほか)
など

※国立感染症研究所「災害と感染症」を基に作成。避難所の過密状態に伴う感染症等を除く

復旧への主な流れ

① 被害状況の確認

- ・役所などへの連絡・相談
- ・被害画像の撮影

② 撤去・片づけ

- ・水に浸かったものを運び出す（家財道具・畳・床板など）
- ・床下の泥などを掻き出すための準備

水に濡れたものは重いため
移動には人手が必要

③ 洗浄・除菌

- ・泥を掻き出し、水などを用いて除染（家財道具・畳・床板など）
- ・水などで複数回洗浄し、キレイになったら薬品を用いて消毒

消毒剤の選定 → 右表参照

④ 乾燥

- ・床下や壁などはしっかり乾燥

⑤ 内装など

- ・破損・撤去したところの修復

復旧!

復旧における作業Point

作業前準備

- ・ケガなどの予防のため、肌の露出を抑える服装で行う（長袖・長ズボン・手袋・マスクなど）
- ・高温多湿の環境で発生する機会が多く、熱中症などに十分注意する（水分や塩分の補給・着帽・タオル・替え下着など）
- ・薬剤などを使用する際は用法・用量をよく読んで従う

薬剤の選定・使用方法(例)

主な状況	消毒薬	調整例	使用方法
汚水に浸かった壁面や床、家財道具や手指	0.1%塩化ベンザルコニウム	10%塩化ベンザルコニウム 10ml(キャップ2杯)に水を加えて1ℓとする	汚れを十分に落とし、乾いた部位に対し、調整液に浸した布などでよくふき取る
食器類	0.02%次亜塩素酸ナトリウム(台所用漂白剤など)	6%次亜塩素酸ナトリウム 3.3ml(キャップ0.5杯強)に水を加えて1ℓとする	水洗いした食器を調整液に10分以上浸し、その後自然乾燥させる。鉄などの金属は腐食に注意する
		調整済みのものがほとんど	水洗いし、乾いた食器などに吹きかけ自然乾燥させる

「洪水などの災害復旧」については、イカリ消毒までご相談ください